

新規就農先輩の軌跡 NO. 2

新規就農者の素顔	農業経営の状況（現在）
 <p>氏名：岡 浩介（おかこうすけ） 住所：宝塚市 大原野 年齢：48 歳</p>	<p>農地：30a（借地 30a） 施設：ビニールハウス 20a 経営内容： ・ トマト 15a ・ ほうれんそう 20a ・ キュウリ 4a 労働力：本人、妻 出荷先：JA直売所、量販店、市場</p>  <p>フィンゲンサイの間引き中</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>1999年 離職 宝塚市のトマト農家で2年間農業研修</p> <p>2001年 就農</p> <p>2009年 ハウスを増設 現在に至る</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サラリーマン当時のストレスから解放されたためか、その当時より健康になった気がする。 ・ 都会では味わえない人間関係（祭等）が築けた。 <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物を植えてから収穫するまでにお金がかかり、現金が手元に入るのが先になるのでやりくりが大変。 ・ 思ったとおりにはなかなか作物は育たない。
<p>農業をめざした動機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さい頃から中学生くらいまで、祖父母の田んぼに田植え、稲刈りをよく手伝いに行っていた。機械のない、この時代に親戚が集まったの共同作業で、これが楽しい思い出となり農業にあこがれを感じた。 ・ 40 歳の手前で今後の人生を考えたとき本当にやりたいこと（農業）をやろうと思った。 	<p>後輩へ贈る言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の習得、土地の確保、資金の準備がしっかりしていないとしんどい。とくに技術はきちんと身につけてから就農した方がいい。 ・ 農業を続けていくには地域にとけこむ事が重要であると考えます。集落の出役（溝掃除等）には必ず出席する。また、その他の地域の行事（秋祭等）にも積極的に参加する。